

平成30年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「徳性・知能・体力」ともにすぐれ、誠実、明朗で友愛と気力に満ちた人物の育成に努めるとともに、生徒一人ひとりの持てる力を最大限に伸ばし、地域に貢献する人材を育て、地域に信頼される学校づくりをめざす。

そのために、

- ①「確かな学力」への取組みを通して、学習習慣の定着を図るとともに、基礎的な力の定着と自ら学び考えることのできる応用力を養成する
- ②「豊かな心」を育む活動を通して、自尊感情を高め、他者を理解し共感できる力を涵養する
- ③「キャリア教育」を全ての教育活動の中で展開することを通して、明確な将来設計を描き、目標に向かって努力し続ける態度を育成する

2 中期的目標

1 確かな学力の育成と進路実現の支援

(1) 授業力の向上と確かな学力の育成

ア 授業に集中する環境づくりを進める。校内授業見学の充実を図ることにより、教員の授業力を高める

イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくりを進める

ウ 大学入学者選抜改革を踏まえ、社会で自立するために必要な基礎学力を育成するとともに、生徒の学習習慣の確立を図る

※学校教育自己診断生徒項目の学習・授業に関する項目の肯定的評価平均を、68% (29年度) ⇒ 75% (2020年度)

※学力生活実態調査等における学力レベルの維持、授業外学習時間の増加

(2) カテゴリー制の充実

ア 「人文ステップアップコース委員会 (JSI)」が中心となり、ステップアップコースの一層の充実とともに、カテゴリー制全体の充実を図る

イ 進路意識の醸成と連動したカテゴリー選択指導を充実させる

※ステップアップコースの大学進学希望者中、より自己の進路実現に向けて一般入試まで努力する生徒の割合を、25% (29年度) ⇒ 35% (2020年度)

(3) キャリア教育の推進

ア 進路指導と人権教育をコラボレートした「総合的な学習の時間」を軸に、学年ごとの目標の具体化と検証を進め、3年間を見通した全ての教育活動の中でキャリア教育を展開する

イ カリキュラムの充実・改善と生徒への支援のより一層の充実を図るとともに、必要な教育環境の整備を進める

※学校教育自己診断生徒項目、保護者項目の進路指導に関する項目の肯定的評価平均を、約75% (29年度) ⇒ 85% (2020年度)

※学校教育自己診断教職員項目の進路「きめ細かい指導」・「組織連携」関係項目の肯定的評価平均を67% (29年度) ⇒ 75% (2020年度)

2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進

(1) 部活動、生徒会活動の活性化と、自主的に規律ある学校生活を送る意識を高める指導

ア 部活動への加入を一層促進するとともに、生徒会主催のボランティア活動の充実を図るなど、生徒の主体性や協調性を育む

イ 遅刻を減らす取組み、着実な清掃活動の推進により、自分たちで規律ある生活を送り学校をよくし後輩に伝えていく意識を醸成する

※1、2年生の部活動加入率60% (29年度10月) ⇒ 65% (2020年度10月)。登校遅刻数1169 (29年度) ⇒ 1000以下 (2020年度)

学校教育自己診断生徒項目「生徒会活動は活発である」の肯定的評価を、60% (29年度) ⇒ 70% (2020年度)

生活指導に関する項目の肯定的評価を、64% (29年度) ⇒ 75% (2020年度)

(2) 教育相談体制の充実

ア 生徒や保護者に対するきめ細やかな教育相談ができるよう、情報の共有や体制づくり、環境整備の充実を図る

※学校教育自己診断生徒項目の教育相談、支援に関する項目の肯定的評価平均を、74% (29年度) ⇒ 82% (2020年度)

※学校教育自己診断保護者項目「気軽に相談できる」の肯定的評価平均を、71% (29年度) ⇒ 80%以上 (2020年度)

3 学校の組織力向上をめざした取組み

(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化

ア 生徒情報を中心とする学校情報の共有と、学年・分掌等の組織間での円滑・有機的な連携を図る

イ 学校運営改善に向け、「将来構想委員会」及び「7つのチーム」を軸に、組織・教員間で連携・協働し各アクションプランを推進する

(「7つのチーム」: ①授業力向上 ②服装検討 ③地域連携・広報 ④教員間連携 ⑤学校紹介ビデオ・パンフ作成 ⑥学習意欲向上 ⑦学校説明会)

ウ 「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理

※学校教育自己診断教職員項目の診断「組織連携・運営改善」に関する項目の肯定的評価平均を、60% (29年度) ⇒ 70% (2020年度)

(2) 経験年数の少ない教員のOJTの推進

ア 若手教育力育成の「さみどり塾」、研究授業の定例化や、「伝え合い・学び合い」の取組みをすすめ世代継承の活性化を図る

※学校教育自己診断教職員項目の診断「経験の少ない教職員育成の体制」に関する項目の肯定的評価を、50% (29年度) ⇒ 60% (2020年度)

(3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化

ア 部活動や体育祭、文化祭での参加・交流等による中高・地域連携、大学からの学生派遣 (学習支援) 等による高大連携を一層前進させる

イ ホームページの更新と、ホームページ等を通じた学校の取組みについての発信を強化する

※学校教育自己診断生徒項目の「授業や部活動などでの校外連携」項目の平均を、50% (29年度) ⇒ 60% (2020年度)

同保護者・生徒両項目の「学校のホームページをよく見る」の肯定的評価を、生徒21%、保護者23% (29年度) ⇒ ともに30%以上 (2020年度)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成30年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
◎肯定的回答率の全平均 ※データ: 29年度 ⇒ 本年度 【生徒】66.1% ⇒ 65.8% 【教員】60.7% ⇒ 60.0% 【保護者】68.1% ⇒ 68.2%	

◎項目をいくつかのカテゴリーにまとめた場合の傾向

【生徒】

- | | |
|------------------------|-----------------------|
| ①学校全体についての意識： 53% ⇒51% | ②学習・授業に関して： 68% ⇒70% |
| ③生活指導に関して： 64% ⇒63% | ④進路指導に関して： 77% ⇒78% |
| ⑤教育相談、支援について： 74% ⇒72% | ⑥人権教育・学習について：69% ⇒69% |
| ⑦学校行事、生徒会活動： 64% ⇒61% | ⑧施設・設備に関して： 64% ⇒64% |

※ 生徒のカテゴリー別の結果について、今年度は「②学習・授業に関して」「④進路指導に関して」の数値が微増している以外、横ばい又はわずかに減少している。

【保護者】

- | | |
|-------------------------|------------------------|
| ①学校全体についての意識：65% ⇒ 68% | ②授業・評価に関して： 51% ⇒ 59% |
| ③生活指導に関して： 69% ⇒ 71% | ④進路指導に関して： 73% ⇒ 75% |
| ⑤保護者連携、参加・相談：68% ⇒ 65% | ⑥人権教育、学習について：78% ⇒ 73% |
| ⑦学校行事、生徒会活動： 76% ⇒ 74% | ⑧施設・設備に関して： 69% ⇒ 68% |
| ⑨学校からの情報提供関連： 63% ⇒ 67% | ⑩学校教育への参画関連： 74% ⇒ 65% |

※ 保護者のカテゴリー別の結果について、今年度は「⑤保護者連携、参加・相談」「⑥人権教育、学習について」「⑦学校行事、生徒会活動」「⑧施設・設備に関して」がわずかに減少している以外は微増している。特に「②授業・評価に関して」は8%増である。一方、「⑩学校教育への参画関連」については9%減となっている。

【教職員】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| ①教育計画・学校全体： 57% ⇒ 54% | ②授業・評価に関して： 61% ⇒ 65% |
| ③生活指導に関して： 60% ⇒ 62% | ④進路指導に関して： 64% ⇒ 61% |
| ⑤相談・支援体制： 68% ⇒ 66% | ⑥人権教育、学習について：66% ⇒ 67% |
| ⑦学校行事等特別活動： 64% ⇒ 53% | ⑧施設・設備に関して： 35% ⇒ 50% |
| ⑨地域・保護者連携： 79% ⇒ 74% | ⑩学校組織に関するもの： 59% ⇒ 54% |
| ⑪教育活動改善に関して： 66% ⇒ 66% | ⑫保護者への情報提供等： 80% ⇒ 75% |

※ 教職員のカテゴリー別の結果について、今年度は「②授業・評価に関して」「③生活指導に関して」「⑥人権教育、学習について」「⑧施設・設備に関して」が増加している以外は減少している。特に「⑦学校行事等特別活動」が11%減少している。

昨年度、11%減少した「⑧施設・設備に関して」は15%増加した。

◎課題

・「学習・授業」に関して

「質問のしやすさ」「教え方の工夫」「わかりやすい授業」については、生徒・保護者の肯定率の上昇や、「基礎・基本の手厚い指導」についての教職員の肯定率が11.7%増加していることから、生徒とのコミュニケーションや生徒の困り感への対応が向上していると考えられる。

「ICT機器の活用」については、生徒は9.4%、教職員も15.4%増加している。これらは、プロジェクターを用いた授業、プレゼンテーションや調べ学習を取り入れた授業等が増加していることに加え、本年度から導入した「学習支援ツール」、「学校経営推進費」の支援によって配備した『進路学習室』の活用も要因となっていると考えられる。特に、『進路学習室』でのタブレット型端末での調べ学習やプレゼン資料作成、天井吊下げ式プロジェクターも活用した授業や生徒のプレゼンテーションが充実してきたことも影響していると考えられる。

「他の教員の授業見学の機会」については、生徒は9.1%増加、教職員も微増(2.4%)している。これらは「授業力向上チーム」が中心となって取り組んだ、授業公開週間の有効活用・参加促進の働きかけが功を奏したと考えられる。

一方、「学習指導計画の各教科での検討」の減少傾向(82%⇒78%⇒75%)、「評価に関する話し合い」が10.6%減少していることから、今後実施する「道徳教育」「探究」についての検討も含め、効率的・効果的な協議の在り方についての工夫が必要であると考えられる。

・「生活指導」に関して

生徒指導部では「基本的なマナーやルールの遵守」を本年度の重点課題の一つとして掲げ、「基本的な生活習慣の確立」に向け取り組みを進めてきた。特に、遅刻や身だしなみ指導に力を注ぎ、厳格かつ丁寧な指導により一定の効果が生まれている。その一方で生徒の「指導に対する納得」については、53.4%(2%減)と低く、教員の「カウンセリングマインドを取り入れた生徒指導」は75%(9%増)と高くなっている。また、保護者の「間違った行動を厳しく指導してくれる」の80.9%(6%増)に対して「生徒指導方針に共感できる」は64.7%(7.3%減)という状況である。これらの差異をもとに問題点を明らかにし今後の対応を考える必要がある。

遅刻については、教員の指導に対して、保護者の理解・協力を得ながら生徒もよく頑張っており、現時点で目標を上回る成果が見込まれる。

・「進路指導」に関して

カテゴリーでの肯定率は生徒・保護者ともに微増しているが、教職員は微減になっている。これは教職員の「興味関心、適性に応じたきめ細かい指導」が75%(1%増)であるのに比べ、「系統的なキャリア教育」は47.7%(6.3%減)となっていることによる。この結果から、高校3年間の系統的なキャリア教育、進路指導計画について再確認するとともに、急速な社会情勢の変化や高大接続改革等、変革が目まぐるしい中、「総合的な学習(探究)の時間」等の教育活動との連動も考慮し、系統的・体系的な進路指導ができるようより一層の工夫が必要である。

これまでも力を入れ成果をあげている、生徒の進路ニーズに応じた講習、面接、小論文や志望理由書作成等に関わる手厚い指導を今後も継続・充実させていくためにも、分掌組織の在り方、指導ノウハウの継承、外部産業の活用等、進路指導のより一層の充実が必要である。

・「情報提供」に関して

カテゴリーの結果としては保護者が4%増(67%)となっている。これはカテゴリー中「地震・台風等の行動マニュアルが知らされている」84.8%(4.5%増)、「家庭への連絡等を積極的に行っている」74.6%(0.3%増)等、70から80%の項目の他に、「教育方針をわかりやすく伝えている」56.9%(12.9%増)、「ホームページをよく見る」31.4%(8.4%増)という項目の影響である。今後も様々な取組みの趣旨・目的や内容をより明確に伝えていく必要がある。

<第1回> 平成30年5月11日(金)

「部活動」について

・中学での部活動加入率は非常に高いのに、高校になると加入率が激減するのはなぜか。(小学校、中学校で土日も休みなく活動してきたことに疲れた、というのを聞く。)(経済的なこともあり、高校生になるとアルバイトに流れる傾向もある。)(地域のスポーツクラブに活動している生徒も多いように思われる。)

「カテゴリー制」と「ステップアップコース」について

・学習面も大切であるが、学校の中で将来につながっていく経験の場を準備する必要があるのではないか。部活もそのような場だと思う。

「制服の導入」について

・今の子どもは、制服を求める声が強い。新制服について中学生の意見を聞くのもよいと思う。(学校説明会等で現中学生の意見を聞く機会を設けた。)

<第2回> 平成30年10月26日(金)

「避難訓練」について

・全員の安全確認に時間がかかりすぎている。
・教員、生徒の危機管理意識の向上が重要課題。特に教員の動きにその意識が現れるものである。
・備蓄品を生徒が実際に食べることを避難訓練時に行うことも検討してはどうか。
・ホームページのブログの充実力を入れているのは非常に良い。自然災害時での情報を得る手段としても役立つ。

「朝学・学習支援ツール」について

・今年度から始まった「朝学」や「学習支援ツール」の効果についてはどうか？
(1年生は入学時より始まったので落ち着いて取り組んでいる。)(自学自習ができていない生徒は学習支援ツールを活用している。)

「生徒会」について

・生徒主体の生徒会に期待する。

<第3回> 平成31年2月8日(金)

1. 本日の授業見学について

・教師の声、言葉が生徒にきちっと届き、インタラクティブな学びが展開されていた。生徒のアウトプットをよく引き出している印象を受けた。
・導入、展開、まとめが感じられる授業であった。
・生徒の自発性を引き出す工夫を感じた。

2. 学校経営計画及び評価について

・アンケートの分析がよくできている。「やらなければならない事」が増加している。限られた時間の中で効率的にしなければ、やることばかりが増え動けなくなってしまう。
・生徒、保護者、教職員アンケート結果で「学校行事」の評価が下がっている。これも「やらなければならない事」が増加している中で効率的に動いていないからではないか。
・「卒業生講話」という企画は非常によいと思う。歳が近く身近に感じるといのが、生徒の心に浸透しやすい。
・生徒の安否確認のシステム化を考える時代になった。
・身の回りを片付けられない生徒が増加しているということは、現代社会の風潮だろうか。「いい加減」な環境や行為が許されてしまうと、さらにだらしない環境や行為を作り出すことにつながりかねない。

3. その他

・学校として、次のステップへ移行していく目標設定が重要になる。
・地元意識が強い地域。地域に愛される学校をどうつくっていくか、地域行事にどのように参加していくかが大切である。
・学校は外部機関との連携がますます大切になってきている。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (H29⇒H30)	自己評価
1 確かな学力の育成と進路実現の支援	<p>(1) 授業力の向上と確かな学力の育成 ア 授業に集中する環境づくり イ 主体的・対話的で深い学びを実現できる授業づくり ウ 大学入学者選抜改革等を踏まえた基礎学力の育成、学習習慣の確立</p> <p>(2) カテゴリー制の充実 ア ステップアップコースの検証とカテゴリー制全体の充実 (3) キャリア教育の推進 ア 年間目標の具体化と検証 イ カリキュラムの充実・改善 ウ 生徒への支援の体系化と環境整備</p>	<p>(1) ア 学びに向かう姿勢づくり、机上整理等の授業規律の徹底を図る。 ・生徒との良好なコミュニケーションの実現 ・校内授業見学週間の活性化(見学しやすい条件整備等)と研究授業や研修の充実 イ 各教科・科目の学習の内容と方法の両面から生徒の学びを質的に高める。 ・視聴覚機器、図書館を活用した授業の実践 ウ 朝学(文章力・集中力・見通し力の育成)及び新学習ツールの効果的な活用を図る。 ・学習方法等の相談支援、家庭学習習慣、自習室活用の促進等、生徒に懇ろに働きかけ、質量ともに授業外学習の充実を図る。</p> <p>(2) ア カテゴリー制全体の充実を図る。 ・ステップアップコースの効果検証 ・学習指導要領の改訂等を踏まえ、現状と課題を明確にし、新カリキュラムの検討を進める ・理系進学対応の強化</p> <p>(3) ア 生徒が身近な存在をモデルに将来を考えたり進路を考えたりできる機会の充実。 イ 進路実現に必要な力について議論を集約しカリキュラムに反映させる。 ウ ・進学講習、資格取得に向けた講習や面接指導等、支援体制の体系化・組織化 ・新進路資料室の開設、教育環境整備の改善</p>	<p>(1) アイ 学校教育自己診断(以下、「診断」)【生徒】学習・授業関係項目で肯定的評価(以下、「肯定」)の平均(68%⇒73%) ・校長授業観察(年間2回実施)、面談の充実 ・診断【生徒】「他の先生が授業を見る」肯定(46%⇒50%) イ 自己申告で全員が目標化、達成状況で80%以上、診断【生徒】「視聴覚機器を使う授業」(52%⇒55%)、診断【教職員】「図書館の活用」(34%⇒40%) ウ 円滑実施、効果について検証 ・授業外学習時間の増加</p> <p>(2) ア 大学進学で一般入試まで(最後まで)努力する生徒(25%⇒30%) ・4月から検討11月迄にまとめ</p> <p>(3) ア 診断【生徒】【保護者】進路関係項目肯定(生:77%⇒80%、保:73%⇒78%以上) イ (2)ア(11月迄にまとめ) ウ (3)診断【教職員】進路「きめ細やかな指導」・「組織連携」関係項目肯定平均(67%⇒70%) ・4月開室、6月整備案確定</p>	<p>(1) ア 朝学習の効果もあり、授業に向かう姿勢は一定向上している。机上整理等については全教員が意志統一して指導を行う必要がある。「学習・指導関係」(68%⇒70%)(△) ・授業観察は基本1回となり2回以上は数人となった。導入や発問に工夫が認められた。(△) ・「授業力向上チーム」が中心となって、公開授業の内容を事前に周知するなどの工夫を行った。「他の先生が授業を見る」(46%⇒56%)(○) イ 「学校経営推進費」と同窓会によるICT機器の活用を図る。「視聴覚機器を使う授業」(52%⇒62%)(○)、「図書館の活用」(34%⇒50%)(○) ウ 意見やテーマを募集するなど、工夫・改善に努めた。単位認定に向け調整中。(○) ・3学年平均時間:1学期34分→2学期52分(○) (2) ア 37%(○) ・JSIを活用し学力伸長の把握に努める。朝学習の単位認定を含めさらに検討を継続する。(○) (3) ア 「卒業生講話会」を1年生対象に実施。生徒の意識付けに効果が認められた。(○)(生:77%⇒78%、保:73%⇒75%)(△) イ ※(2)を参照(○) ウ 講習・面接指導は早朝・放課後・土日と丁寧実践。(67%⇒65%)(△)・「学校経営推進費」により計画通り整備し活用を開始。(○)</p>
2 安全で安心な魅力ある学校づくりの推進	<p>(1) 部活動、生徒会活動の活性化、規律ある学校生活 ア 部活動、生徒会活動の活性化 イ 遅刻指導、清掃活動推進 ウ 服装について</p> <p>(2) 教育相談体制の充実 ア 情報の共有や体制づくり及び環境整備の充実 イ 「いじめ防止」をはじめとする人権教育の充実 (3) 交通安全指導、防災教育の充実</p>	<p>(1) ア 部活動加入の促進を図る。 ・勧誘活動、部活動の発信力強化(学校HP等) ・図書委員活動の更なる充実 ・生徒会執行部が主催、活躍する行事の充実(学校説明会、国際交流活動等での活躍) イ 遅刻指導、美化活動の更なる充実を図る。 ・登校遅刻の更なる減少 ・清掃の強化、保健委員活動の更なる活性化 ウ 平成31年度制服導入に向けて取り組む</p> <p>(2) ア 「生徒支援委員会」の効果的運用を軸に教育相談体制の充実・強化を図る。 ・運用サイクル定着と、運用のための研修実施(「高校生活支援カード」活用、観察、ケース会議、カウンセリング、個別支援計画作成等) ・教育相談室の活用等、教育相談機能の充実 ・効率的、効果的な生徒情報の共有、ユニバーサルデザインに基づく授業等の整備 イ 人権教育の一層の充実を図る。 ・「いじめ防止委員会」と各種会議等との連携 ・いじめ防止アンケート等の活用と対応の充実</p> <p>(3) 交通安全指導(特に下校時)、防災避難訓練等の防災教育の更なる充実を図る。</p>	<p>(1) ア 部活動加入率(60%⇒63%)、1年は65%以上を目標。HPの定期更新。 ・図書委員活動、生徒会活動の具現化(新規又は改善2件以上) ・診断【生徒】「生徒会活動は活発」肯定(60%⇒65%) イ 年間登校遅刻1100以下(H29:1169)、診断【教職員】清掃関係項目肯定(46%⇒50%) ウ 計画通り着実に進める</p> <p>(2) ア 診断「相談・支援関係」項目肯定(【生徒】75%以上、【教職員】68%⇒70%)、【保護者】「気軽に先生に相談できる」肯定(71%⇒75%) イ ・診断【生徒】「いじめなどへの対応」肯定(73%⇒75%) ・診断【生徒・保護者】「人権尊重」項目肯定平均(74%⇒75%以上)</p> <p>(3) 診断【生徒】【保護者】「防災関係」項目肯定(生:76%⇒80%、保:80%⇒85%)</p>	<p>(1) ア 加入率59.9%(6月)、1年:61.6%(12月)。今後も加入促進に努める。(△) ・更新状況のチェックと促進に一層努める。(○) ・学校説明会等に執行部生徒がより一層計画的に参画できるようにする。(60%⇒57%)(△) イ 760(◎) ・重点化して清掃に取り組む。(46%⇒25%)(△) (2) ア 組織としての役割を明確にし、共有する。(【生徒】72%、【教職員】68%⇒66%、【保護者】「気軽に相談できる」肯定71%⇒64%)(△) イ 年3回のアンケートに加え、1年は早期に実施。(75%⇒73%)(△) ・情報の的確な把握、迅速な共有と対応、SCや外部機関との連携の徹底を図る。(73%⇒72%)(△) ・要項に即した運用・管理を徹底する。(74%⇒71%)(△) (3) 生活委員による啓発活動、警察との連携による交通安全の取組みを一層充実させる。また、緊急時の安否確認、保護者への連絡等、体制の強化と共通理解を図る。教職員及び生徒の備蓄を完備する。(生:76%⇒80%、保:80%⇒85%)(○)</p>
3 学校の組織力向上をめざした取組み	<p>(1) 学校運営改善に向けた方策の具現化 ア 学校情報の共有と、組織間での円滑・有機的な連携の充実 イ 学校運営改善に向けたアクションプランの推進 ウ 「働き方改革」を見据えた運営改善及び教職員の健康管理</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員のOJT推進 ア 「さみどり塾」、研究授業の定例化 イ 世代継承の取組み (3) 中高・高大・地域連携の推進と広報活動の強化 ア 高大連携 イ 中高・地域連携 ウ ホームページの更新、発信強化</p>	<p>(1) ア・全教職員によるタイムリーかつ効率的な「報・連・相・確認」の推進 ・再編された分掌業務の円滑な運営を図る。 ・指導方針、運営方針の共通理解と徹底 ・各方針の学年、教科、分掌・委員会間での統一、全体での共通理解 ・個人情報保護の徹底 ・コンプライアンスに係る教職員の意識向上 イ 「将来構想委員会」及び「7つのチーム」を軸にアクションプランを組織的に推進 ウ 各種会議の精選、資料の事前配付等による会議の効率化、教材、各種案内文書等の共有 ・時間外在校時間が多い教職員への個別指導</p> <p>(2) ア・初任者中心に若手教員の年間通した授業力向上の取組み(研修、相互見学、研究授業、示範授業等) ・世代継承の研修として「さみどり塾」の充実 イ 学校全体での育成に向け、全教職員が「学ぶこと、伝えること」いずれかを目標化する。</p> <p>(3) 市内小中学校、地域との連携を推進する。 ・生徒会、部活動、行事等での交流の充実 ・オープンキャンパスの充実、参加者の増大 ・広報ビデオや新リーフレット等の充実 ア 高大連携の推進を図る。 (大学生の学習支援派遣、協働プロジェクト、留学生交流、研修依頼等) イ 中高・地域連携の推進を図る。(インターンシップ受入、授業見学、部活動交流等) ウ 学校情報の発信強化を図る。 ・ホームページのコンテンツ充実、更新の定着 ・生徒・保護者への周知(配付物・メール等の活用)の徹底</p>	<p>(1) ア ミドルアップ・ダウンマネジメントの進捗と効果 ・診断【保護者】【教職員】「個人情報管理」肯定(保:81%⇒85%、教:78%⇒80%以上) イ 各アクションプランの進捗・達成状況により評価 アイウ 診断【教職員】「組織連携・運営改善」関係項目肯定の平均(61%⇒65%) ウ 個別指導を毎月実施</p> <p>(2) アイ 診断【教職員】「経験少ない教職員を学校全体で育成する体制」肯定評価(50%⇒55%) イ 自己申告票で全員が目標化、達成状況で80%以上</p> <p>(3) アイ 連携関係の新規又は改善を少なくとも2つは行う ・学校説明会等への参加者数(508⇒600以上) ・診断【生徒】「授業、行事等を通して校外と交流機会ある」肯定(50%⇒55%) ウ 診断【生徒】【保護者】「学校のHPをよく見る」肯定(生:21%⇒30%、保:23%⇒30%)</p>	<p>(1) ア 各分掌等が総括や指針等をもとに積極的に協議し提案がなされている。(○) ・分掌再編の総括をもとに、役割分担、人員配置等の観点から検討を進めている。(○) ・「情報セキュリティポリシー」の内容及び保存期間、「個人情報流出防止のためのルール」の理解・遵守を徹底する。(保:81%⇒80%、教:78%⇒71%以上)(△) イ チームの位置づけを明確にし、検討内容について教職員全体での共有を図る。業務の偏重に留意しアクションプランの重点化など精査にも努める。(61%⇒58%)(△) (2) ア 初任者の研究授業・研究協議の充実が課題。(50%⇒43%)(△) ・初任研や2年目研修、10年研を統合した「さみどり塾」で、今年度から構成員が順番でテーマ別に企画・進行を担当。あわせて校長への学校運営改善の提言を行った。(○) イ 面談等を活用し目標化は達成している。達成状況:68%(△) (3) アイ 新たに、摂南大学及び関西外国語大学の留学生との国際交流、長尾校区の体育祭、わらしべ会主催「障がい者柔道交流会」で部活動交流を実施。(◎) ・説明会等への参加者数573名(△) ・「長尾高校NEWS」計4号を長尾校区・西長尾小学校区自治会計589班に回覧。(○) ・長尾駅伝、長尾カップに加え4件の交流活動が増加。生徒の意識付けが必要。(50%⇒51%)(△) ウ 「長尾高校ニュース」「ブログ」は充実。(○) ・校長ブログは月平均12回(H29:8.8)更新。(生:21%⇒28%、保:23%⇒31%)(○)</p>